

令和3年12月遠野市議会定例会

遠野市長所信表明演述

令和3年11月30日

遠 野 市

1 はじめに

本日ここに、令和3年12月遠野市議会定例会が開会されるに当たり、市長就任のあいさつを申し上げますとともに、今後の市政運営に対する私の所信の一端を申し述べ、議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

この度の選挙において市内各所に足を運び、市民の皆様と対話を重ねる中で、多くの方々が「ふるさと遠野」を大切に、そして誇りに思っていることを改めて強く感じ、うれしく思いました。

また一方では、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、多くのイベントが中止となり、市内経済も低迷を続けるなど、先行きが不透明な状況であり、市民の皆様のやりきれない思いや閉塞感も漂っておりました。

このような状況の中、このたび、市民の皆様の負託に応えるべく、第2代遠野市長として、遠野市政を担わせていただくこととなりました。

私が市政への思いを強くしたのは、あの東日本大震災でした。

多くの仲間と共に「NPO法人遠野まごころネット」を結成し、被災地支援とボランティアの受入れに奔走していた時、損得なしに動く遠野市民のこころの豊かさ、温かさに心を打たれました。

私の座右の銘「人生意気に感ず」が現実となった光景を目の当たりにして、「市民一人一人の可能性を生かすリーダーとして、このまちをもっと良くしたい」と突き動かされました。

遠野市が持つ底力と、この地を愛する市民一人一人の思いを一つにしていくことで、夢と希望の持てる遠野市に向けて、必ずや道を切り開くことができると確信しています。

個人の価値観や社会の構造が大きく変わり、さらには、全国的に想定外の自然災害が発生する中であっても、私自身が先頭に立ち、新しい時代への挑戦を続けてまいります。

2 市政運営の考え方

それでは、市政運営に対する私の考え方を申し上げます。

第2次遠野市総合計画の基本理念である、「遠野スタイルの創造・発展」を尊重し、その実現に向けた取組の推進により、持続可能なまちづくりによる「永遠の日本のふるさと遠野」の実現を目指してまいります。

少子高齢化・人口減少が進む中で、ポストコロナを見据えた新たな仕組みづくりを進める必要があるなど、現在、市では多くの課題を抱えていることから、その解決のため、様々な取組を、さらに充実させていくことが必要であります。

しかしながら、行政だけの取組では、人的にも財政的にも限界があり、思うように課題を解決することが困難なことも

多々あります。

そのため、まずはそれらの課題を市民の皆様と今一度共有し、対話を重ねながら新たな仕組みづくりを進め、官民が一体となって、遠野ならではの資源をいかした施策を展開していくことが必要です。

このことから、なによりも現場の声をいかにするため、市民の皆様と語り合う機会を、できるだけ多く設けてまいります。

多くの市民の皆様に参加いただくことで、政策決定に至る過程と予算配分の透明性を確保し、これまで以上に開かれた行政を目指してまいります。

市の財政状況については、市税などの自主財源が少なく、国の地方交付税などに依存する構造となっており、近年は、財政調整基金などの主要基金も減少しつつあります。

令和3年度を初年度とする、第四次遠野市健全財政5カ年計画を着実に推進し、これまでの市民の皆様からの要望を踏まえつつ、既存事業の検証・見直しを行いながら財源の確保に努め、実現に向けた再検討を行ってまいります。

また、歳入の確保に向けて、特に「ふるさと納税」をより一層全国から広く募ることができるよう、遠野の魅力の掘り起こしと、効果的な情報発信に努めてまいります。

市役所の機能強化については、急速に変化する社会情勢、ICTをはじめとする技術革新に対応するため、組織体制の再構築を行い、市民の皆様に分かりやすく機能的な体制を構築

いたします。

しかしながら、世界は激動の時代を迎えており、これまでの経験的法則が当てはまらないことが次々と発生しています。こうした変化の中で、既存のルールや仕組みでは対応しきれない事案の発生もありうることから、その状況に応じて、組織の枠組みを越えて、柔軟に対応していくことも必要であると感じております。

また、職員の能力を一層引き出すことができる環境づくりを進め、若い職員が積極的にアイデアを企画・提案し、市の施策に反映させることのできる仕組みづくりを進めてまいります。

3 市政課題への対応とまちづくりの基本方針

次に、私が公約として掲げた「市民の命と暮らしを守る」の実現のために、私が掲げたまちづくりに関する5つのビジョンについて、それぞれ所見を述べさせていただきます。

(1) 安心して暮らせるまち

はじめに、「安心して暮らせるまち」についてであります。

本年4月から、市内の全地区において「支え合う小さな拠点による地域づくり」の取組が、本格的に始まっております。その取組をさらに進化させ、地域住民みんなが参画できる地域づくりが実現できるよう、地区センターの多機能拠点化を図るなど、地域偏在の解消に努めてまいります。

また、人口減少に対応する地域の人材確保を図るため、行政区の再編による地域組織の強化に取り組むとともに、現役世代の方々が積極的に地域づくりに関わることができる仕組みづくりを進め、「地域力」を高めるような施策に取り組んでまいります。

また、「地域力」の高まりとともに、併せて消防団の組織再編を行うことで、「防災力」も高まっていくものと考えており、消防団員の待遇改善を図りつつ団員の確保に努め、災害に強い地域づくりを推進してまいります。

さらには、既存の公共交通体系にとらわれない、新交通システムの導入に向け、構造改革特区の活用も視野に入れながら検討を進め、地域の皆様にとって、便利で利用しやすい地域交通システムを構築できるよう取り組んでまいります。

(2) 市内で経済循環するまち

次に、「市内で経済循環するまち」についてであります。

遠野市の基幹産業である農林畜産業の活性化を図るため、「農業経営の見える化」を推進し、農業で生活設計ができるよう高収益農家の拡大を図り、新規就農の促進と、グループ化・法人化による経営の多角化支援に努めてまいります。

また、将来的に遠野農業の「担い手」となりうる「働き手」の確保に向けて取り組んでまいります。

林業振興については、「遠野市ふるさとの森を育み木と暮らすまち条例」に基づき、市、森林所有者、林業・木材産業・建築関係の事業者が、相互に連携しながら、森林の有する多面的機能の維持及び遠野産材などの利用の促進に取り組み、「遠野の家」のブランド化に向けて、関係者と協議を行いながら、取組の強化を図ってまいります。

地域産業の振興については、地元企業と対話を重ねながら望ましい市内産業の在り方を模索するとともに、ソフト系企業の誘致などにより、地元企業と連動した事業展開へとつなげるなど、市内全体の経済が循環する仕組みづくりに取り組んでまいります。

また、遠野東工業団地をはじめとした「ものづくり産業」の集積化に向けて、県と連携した取組を推進してまいります。

将来に向けた観光戦略については、コロナ禍により、個人の価値観や社会の構造に大きな変化が生じており、新たなニーズに応じた、自然体験型観光などの遠野ならではの魅力的な観光メニューの開発や、SNSなどを通じたグローバルな情報発信に努めてまいります。

(3) みんなでつくる福祉のまち

続いて、「みんなでつくる福祉のまち」についてであります。

本年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。遠野市は、「先導的共生社会ホストタウン」

の認定を受け、「こころのバリアフリー」の実現に取り組んでおります。

この取組を子どもから大人まで広げるとともに、障がいのある方々が自らの可能性を広げられるよう、学びの機会を創り出し、多様な意見を伺いながら、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進してまいります。

また、福祉・介護事業の充実に努め、施設入所待機者の解消を図るとともに、介護現場で働く人材の確保・育成と、その人材を支える仕組みづくりを同時に進めながら、福祉事業が産業として確立できるよう努めてまいります。

加えて、各地域に「まるごと相談員」を配置し、様々な理由により、日常生活に不便を抱えている方々に寄り添った支援と相談支援機能の充実に努めてまいります。

(4) 人の可能性がひろがるまち

続いて、「人の可能性がひろがるまち」についてであります。

遠野市は、世界に誇れる郷土芸能を、数多く有しております。また、柳田國男先生の『遠野物語』に代表される、民話・昔話などの民俗文化の宝庫であります。

こうした遠野ならではの歴史や文化をいかした遠野独自の教育、遠野でしかできない学びの充実に努め、遠野の子どもたちが、将来、遠野で生まれ育ったことを誇れるよう、学校と地域が一体となって、子どもたちを育む「コミュニティ・スクール」の導入に向けた支援など、地域全体で子どもたちの学

びや成長を支える教育環境の整備に取り組んでまいります。

また、次世代の地域社会をリードし、グローバルに活躍できる人材の育成を図るため、様々な国や地域、知識や技術を有する多様な人材を遠野に招聘し、様々な学びの機会を得られるよう努めてまいります。

さらに、サッカーや野球、陸上競技などをはじめとする、多様なスポーツの振興に取り組み、将来、遠野からオリンピック選手を輩出できるよう、指導者の育成や競技環境の充実を図ってまいります。

子育て環境の充実については、安心安全な周産期医療の充実に向けて、引き続き産婦人科や小児科の医師の招聘に取り組むとともに、母子の体と心の健康を守るため、産前産後サポート及び産後ケアの充実に取り組んでまいります。

特に、出産する妊婦の負担を少しでも軽減することができるよう、産婦人科医院の近くで待機宿泊することが可能な仕組みを、新たに構築いたします。

また、保育所等における子育て支援の充実と、職員の負担軽減に向けて、保育現場との懇談の場を設けてまいります。

世界的建築家である「安藤忠雄」先生からご提案・ご協力いただき、本年7月にオープンした「こども本の森 遠野」は、こどもたちが本に親しむことで、夢を育み、未来への可能性

を広げる場所であります。

次の時代を担う子どもたちが、この、「こども本の森 遠野」で多くの夢を描き、やがて世界に羽ばたくことができるよう、適切な運営と多様な学びの創出に努めてまいります。

(5) 風土を守り継承するまち

最後に、「風土を守り継承するまち」についてであります。

私たちは、遠野の貴重な財産である自然や景観、郷土芸能や郷土食などの文化や風習を大切にし、次の世代に引き継いでまいります。

自然環境については、地球規模の環境問題である温室効果ガス、いわゆる二酸化炭素の排出抑制に向けた取組の推進も必要であり、自然や景観との調和・共存を視野に入れながら、環境負荷の少ない小水力発電などの再生可能エネルギーの導入に向けた検討を進めてまいります。

また、民間事業者の乱開発などにより自然環境が損なわれ、災害の発生につながる事例が全国的に発生していることから、開発行為に対する遠野市独自の基準を設けることを検討してまいります。

市内で今なお続く、郷土芸能などの伝承活動は、地域のつながりを強め、絆を強めていくことから、これら伝承活動への支援を行い、地域の活性化に取り組んでまいります。

また、遠野の風土で育まれた郷土食は、私たちの貴重な財産であり、遠野を訪れた方にとって、何よりの魅力であることから、市民の「おもてなしのこころ」と共に引き継ぎ、その魅力発信に努めてまいります。

以上、私が公約として掲げた事項を中心に、まちづくりに関する5つのビジョンについて述べさせていただきました。これら5つのビジョンは、遠野市の最上位計画である「遠野市総合計画」の5つの大綱に繋がるものであり、これまでのまちづくりを継続しつつ、更に発展させていこうという内容であります。

私は、まちづくりを進めるにあたって最も大切なことは、「まちづくりの主役は、市民一人一人である」ということだと思っています。

そして、市民の皆様と対話を重ね、課題を抽出し、その解決に努めること、市民の思いを受け止め、魅力あるまちを創っていくことが、市長の責務であると考えております。

まちづくりの取組は、市役所のみで実現できるものではなく、市民の皆様、市内の企業・団体の皆様のお力がなければ、実現は不可能です。

市役所だけではない、市民だけでもない、私たち一人一人が市政に参画できるまちを目指してまいります。

4 むすびに

平成 17 年 10 月に新遠野市が誕生いたしました。

以来、16 年の長きにわたって遠野市政を率いて来られた本田前市長が、現在の遠野市の礎を築き上げるとともに、遠野市総合計画の基本理念である「遠野スタイルの創造・発展」に向けて、ひたむきに取り組んでこられました。

その功績に改めて敬意を表するとともに、私もその理念の実現に向け、引き続き遠野市総合計画の推進に取り組んでいく所存であります。

私は、遠野市長を務めるにあたり、大切にしている言葉があります。

それは、「温故知新」であります。

「古きを訪ねて、新しきを知る」とも読まれますが、過去のことを調べ、学び、そこで得られた知見を活かして、新たな知識を得て、実践につなげるということでもあります。

遠野市には、各地域で培われ、引き継がれてきた、地域づくりの原点でもある郷土芸能などの様々な「地域資源」があります。地域の可能性を引き出し、さらに磨きをかけ、古くて新しいまちづくりの原動力につなげることで、懐かしさを覚える「宿場町」のような賑わいを、各地域に創り出してまいりたいと考えております。

一人一人の個性が輝き、互いに尊重し合えるまちをつくる
ことが私の願いです。

これは、「誰一人取り残さない」という考えのもと、国連が
定めた国際目標の「SDGs」の理念と通じるものであり、遠
野市のまちづくりの取組を通して、世界の大きな目標の達成
につなげてまいります。

先に述べました、私の座右の銘「人生意気に感ず」とは、「人
は、相手の志や思いの深さに感じて仕事をする」という意味
でもあります。

この初心を忘れることなく、これからの市政運営にあたっ
ては、市民の皆様と明るく楽しく、夢のある遠野を目指して、
私と市職員が一丸となり、常に挑戦する気概を持ち続け、開
拓精神で未来を切り開いてまいります。

以上、市政運営にあたっての私の所信を述べさせていただきました
きましたが、その実現に向け、具体的に取り組む内容につき
ましても、令和4年3月市議会定例会において、改めて施政
方針としてお示しさせていただきます。

終わりに、議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解とご協
力をお願い申し上げ、市長就任にあたっての私の所信表明と
いたします。

ご清聴、ありがとうございました。